

平成28年度

事業報告書

自 平成28年4月1日

至 平成29年3月31日

社会福祉法人 えのき会

京都市伏見区桃山町山ノ下44番地8

社会福祉法人えのき会 2016年度事業報告

1. 役員の状況

【理 事】 理事7名監事2名

役職名	氏 名	任 期
理 事 長	古 川 末 子	平成28年1月10日～平成29年定時評議員会終結時まで
常 務 理 事	村 上 高 久	〃
理 事	渡 辺 登 志 子	〃
理 事	高 橋 陽 子	〃
理 事	西 村 清 忠	〃
理 事	橋 本 加 津 代	〃
理 事	早 川 京 子	平成28年1月10日～平成29年2月28日
監 事	磯 貝 英 雄	平成28年1月10日～平成29年会計定時評議員会終結時まで
監 事	荻 原 卓 司	〃

【評 議 員】 評議員15名

評 議 員	古 川 末 子	平成28年1月10日～平成29年3月31日
評 議 員	村 上 高 久	〃
評 議 員	渡 辺 登 志 子	〃
評 議 員	高 橋 陽 子	〃
評 議 員	西 村 清 忠	〃
評 議 員	橋 本 加 津 代	〃
評 議 員	早 川 京 子	平成28年1月10日～平成29年2月28日
評 議 員	小 林 幸 次 郎	平成28年1月10日～平成29年3月31日
評 議 員	小 山 敏 枝	〃
評 議 員	秋 山 延 枝	〃
評 議 員	清 水 千 賀 子	〃
評 議 員	樋 口 和 子	〃
評 議 員	田 中 聖	〃

評 議 員	山 田 章 代	〃
評 議 員	下 山 さ え 子	〃

【評議員選任・解任委員】

選 解 委 員	早 川 京 子	平成 29 年 3 月 1 日～平成 31 年度会計に関する定時評議員会終結時まで
選 解 委 員	磯 貝 英 雄	〃
選 解 委 員	西 山 竜	〃

【第三者苦情解決委員】

苦 情 解 決	石 倉 康 次	平成 28 年 1 月 10 日～平成 29 年度定時評議員会終結時まで
苦 情 解 決	土 田 文 子	平成 28 年 1 月 10 日～平成 29 年度定時評議員会終結時まで

2. 理事会の開催状況

第 1 回理事会

開催年月日：平成 28 年 5 月 23 日 19:15～19:35

場 所：さくらの家 1 階

出席者氏名

- (1) 理 事： 古川末子、村上高久、渡辺登志子、高橋陽子、橋本加津代、西村清忠、早川京子、(理事総数 7 名、出席理事 7 名)
- (2) 監 事： 磯貝監事、荻原卓司
- (3) 事務局： 西山竜

議案及び議決事項

- 第 1 号議案 平成 27 年度 事業報告について
- 第 2 号議案 平成 27 年度 収支決算報告について
- その他
- 報告事項 退職金規程の変更

第 2 回理事会

開催年月日：平成 28 年 12 月 14 日 19:50～20:05

場 所：さくらの家 1 階

出席者氏名：

- (1) 理 事： 古川末子、村上高久、渡辺登志子、高橋陽子、橋本加津代、

西村清忠、早川京子、(理事総数7名、出席理事6名)

欠席理事 渡辺登志子

(2) 監 事： 礒貝監事

欠席監事 荻原卓司

(3) 事務局： 西山竜

議案及び議決事項

第1号議案 定款の変更について

定款変更案並びに、定款細則の決議

第2号議案 評議員選任・解任委員会の委員の決定

第3号議案 評議員の候補者の決定

第4号議案 第三者委員の選任

第3回理事会

開催年月日：平成29年3月27日 18:45～19:00

場 所：さくらの家 1階

出席者氏名：

(1) 理 事： 古川末子、村上高久、渡辺登志子、高橋陽子、橋本加津代、
西村清忠、早川京子、渡辺登志子
(理事総数7名、出席理事7名)

(2) 監 事： 礒貝監事
荻原卓司

(3) 事務局： 西山 竜

議案及び議決事項

第1号議案 2016年度補正予算について

第2号議案 2017年度事業案について

第3号議案 2017年度予算案について

第4号議案 執行役員職務権限規程について

第5号議案 評議員選任解任委員報酬規程について

その他、報告事項

- ・軽微な定款変更について
- ・福祉有償運送運賃の改定について

3. 評議員会の開催状況

第1回評議員会

開催年月日：平成28年5月23日 18:30～19:10

場 所：さくらの家 1階

出席者氏名：

- (1) 評議員： 古川末子、村上高久、渡辺登志子、高橋陽子、橋本加津代、
西村清忠、早川京子、小林幸次郎、秋山延枝、下山さえ子
樋口和子、小山敏枝、山田章代、田中聖
(評議員総数15名、出席評議員数14名)
欠席評議員 清水千賀子
- (2) 監 事： 磯貝監事
荻原監事
- (3) 事務局： 西山竜

議案及び議決事項

第1号議案 平成27年事業報告について

第2号議案 平成27年度収支決算報告について

・ 監事監査報告

その他

報告事項 退職金規程の変更

第2回評議員会

開催年月日：平成28年12月14日 18:30～19:45

場 所：さくらの家 1階

出席者氏名

- (1) 評議員： 古川末子、村上高久、渡辺登志子、高橋陽子、西村清忠
橋本加津代、早川京子、清水千賀子、小山敏枝、
秋山延枝、樋口和子、渡辺登志子、田中聖
(評議員総数15名、出席評議員数13名)
欠席評議員 渡辺登志子、田中聖
- (2) 監 事： 磯貝監事、
欠席監事 荻原卓司
- (3) 事務局： 西山竜

議案及び議決事項

第1号議案 定款の変更について

定款変更案、定款細則の審議

その他

報告事項 職員アンケート結果

第3回評議員会

開催年月日：平成29年3月27日 18:00～18:40

場 所：さくらの家 1階

出席者氏名

(1) 評議員： 古川末子、村上高久、山田章代、下山さえ子、渡辺登志子、
高橋陽子、橋本加津代、西村清忠、清水千賀子、樋口和子
小山敏枝、秋山延枝、小林幸次郎、早川京子、田中聖
(評議員総数15名、全評議員出席)

(2) 監 事： 礒貝監事、
荻原卓司

(3) 事務局： 西山竜

議案及び議決事項

第1号議案 平成28年度補正予算について

第2号議案 平成29年度事業計画案について

第3号議案 平成29年度収支予算案について

その他 報告事項

- ・軽微な定款変更について
- ・福祉有償運送運賃の改定について

4. 評議員選任・解任委員会

第1回評議員選任・解任委員会

開催年月日：平成29年3月27日 17:00～17:15

場 所：さくらの家 2階 相談室

出席者氏名：早川京子(外部委員)、礒貝英雄(法人監事)、西山竜(事務局)

議事等

- ・新評議員の選任

(新評議員氏名・6名)

小林幸次郎、山田章代、小山敏枝、岸本栄嗣、下山さえ子、清水千賀子

5. 法人会議・職員研修報告

◇法人会議

- ・水曜会(年10回程度) 執行役員・事業統括部長・所長
- ・事業運営会議(毎月) 事業統括部長・所長・主任等の事業管理者会議
- ・法人合同職員会議(5月、12月、3月、)

◇職員研修会

第一回 「普通救命救急講習会」

日 時：平成28年4月16日 午後

場 所：さくらの家 1階

参加者：17名

講師：京都市消防局伏見消防署醍醐分署

第二回 「ご家族の思い」

日時：平成28年5月29日 午前

場所：さくらの家 2階

参加者：47名

講師：渡辺 登志子様

第三回 法人職員階層別研修

日時：平成28年8月28日 午前

① 内容 「摂食研修会」

場所：榎の家 1階

参加者：18名（1～3年目の職員）

講師：びわこ学園医療福祉センター草津 中谷 芽氏 言語聴覚士

② 内容 「計画相談について」 午前

場所：さくらの家 2階

参加者：20名（4年目以降の職員）

講師：相談支援員 服部由紀子

③ 内容 安全運転講座 交通事故の発生を防ぐために

場所：さくらの家 2階 午後

参加者：18名（公用車運転業務従事者）

講師：損害保険ジャパン日本興亜（株）京都南支社長 小川昌則氏

第四回 「介護技術研修」～介護の基本・ボディーメカニクス～

日時：平成28年12月13日 午前

場所：榎の家 1階

参加者：41名

講師：早川京子氏 社会福祉専門学校講師・看護師

第五回 「口腔ケアに関する基礎研修」

日時：平成29年1月7日 午後

場所：さくらの家 1階

参加者：29名

講師：洛和会音羽病院 歯科麻酔科副部長 中尾晶子医師他

第六回 「人権研修」伝達研修 伝達講師；飛岡係長

「価値観について」～グループディスカッション～

発題：飛岡係長・石川美樹

日 時：平成 29 年 3 月 26 日 午前

場 所：さくらの家 2 階

参加者：42 名

◇2017 年採用新任職員研修

日 時：平成 29 年 3 月 22、24、26、27、29、30 日、4 月 14 日の合計 7 日間

参加者：3 名

内 容：介護基礎研修、人事制度（キャリアパス）、職員マナー、総合防災訓練、
利用者の健康管理、法人の沿革と基本理念、摂食嚥下の基礎知識、
事業方針、行動規範・就業規則、車いす介助方法等

講 師：早川京子氏、古川理事長、村上市業統括部長、森下係長、清水係長他

◇派遣研修（法人共通）

①たん吸引等研修（特定の者対象）第 3 号研修

日 時：平成 28 年 12 月 1 日、6 日

参加者：1 名

②京都府相談支援従事者初任者研修（6 日コース）

日 時：平成 28 年 8 月、9 月

参加者：2 名

演習 3 日コース

日 時：平成 28 年 9 月

参加者：1 名

③ 強度行動障害支援者養成研修・実践研修

日 時：平成 27 年 7 月、10 月、11 月、1 月、2 月 基礎編 2 日間、実践編 3 日間

参加者：11 名

6. 法人本部報告

◇全般の運営状況とこれから

今年度は、大きな支出はなかったが、昨年 4 月に開所した放課後等デイサービス「そらまめ」が、当初の見込みより 490 万の減となっている。ここ最近、放課後等デイサービスの事業所が増えている事も大きな原因と考えられるが、利用者のニーズをきちんと拾い上げながら、ご家族にも寄り添った「そらまめ」らしいサービスの提供ができるかどうか、生き残れるかどうかのポイントになると思われる。

榎の家中庭のウッドデッキ（3分の2）の取り換え工事を行った（120万）。

今年度は、2 件の監査があった。

平成 28 年 8 月 2 日、3 日の両日、社会福祉法人認可後 10 年が経過したこと、職員が

80名を超えた法人を対象に、伏見税務署の源泉所得税調査が行われた。当法人からは、奥田公認会計士にも立ち会って頂き対応した。過去5年遡っての源泉所得税に関する調査が行われたが、適切な処理がなされているということで、指摘なく終了した。

また、平成29年2月6日～2月10日の期間において、京都市補助金で運営されている法人を対象に、京都市財政援助団体監査(平成27年度)が行われた。監査結果は、5月2日付の京都市のHP上で公表され、法人への指摘は「なし」であった。

◇今後に向けて

えのき会の利用者やご家族にとって、えのき会が真に必要とされている法人かどうか、人権の尊重、一人ひとりに質の高いサービスの提供と環境の改善に向けて努力しているかを常に検証していく必要がある。

平成29年4月1日付で改正社会福祉法が施行された。社会福祉をめぐって社会や制度が大きく変化する中、今後問われるのは、「地域共生社会の実現に向けて」の社会福祉法人の役割である。社会福祉法人のもつ専門性と柔軟性が、地域の中でどう活用されるかに厳しい目が向けられていることから、将来構想の中にもしっかりと組み込んでいかなければならない。

◇組織について

この1年も採用や人材育成、処遇の改善等に法人として力を注いできた。全般的な福祉の現状とも言えるが、採用担当者が労力をかけているにもかかわらず、福祉に人材が集まらず、昨年を超える採用には至らなかった。

29年度は、3名の新規職員の採用と、短時間正職員から正規職員に1名、契約職員から正規職員に2名、非常勤から短時間契約職員に1名登用となり4月がスタートとする。現在、常勤職員53名、非常勤22名、事務職6名、計81名の職員体制となる。

(29年度4月1日採用者3名を含む)

生活介護事業 榎の家 事業報告

【総括】

日中活動では、グループ活動として確立したクッキングに加え、染物や園芸を取り入れた。また、ゆったりする時間として、スヌーズレンを実施し、活動の中で「動」と「静」を盛り込み、1日の流れの中でメリハリを感じてもらえるようにこころがけた。一方、グループの活動だけでなく、ストレッチやパソコン、織物など個々のニーズとしてあげられている活動も重視した。月1回程度のレクリエーションも、季節感を味わうイベントとして、楽しみの一つとなりつつある。今後は、室内での活動が安定してきたこともあり、今ある活動のさらなる展開をはかり、天候に応じ屋外での活動も少しずつ取り入れていく。

昨年5月より、常勤の看護師の配置が可能になり利用者の選択肢を増やすために土曜日も開所している。その結果、年間の開所日数、延べ利用者数も大幅に増えることになった。平日の利用者が増えたこと、多様化する利用者の障害特性など、様々な要因より、現在の施設内では手狭になりつつある。歩行する利用者とマット状に横になられている利用者のそれぞれの安全確保や職員が介助するにあたり、負担がかからない導線など、室内の環境整備をおこない、少しでも余裕がもてる空間づくりを考えている。職員の中で少しずつ意識付けができてきており、今後もさらに検討していきたい案件である。

健康管理面では、必要に応じて、定期通院やリハビリに同行を心がけた。昨年に比べ、身体状況に変化がみられる利用者も増え、健康管理上の課題が増えた。また、専門医に指示を仰ぐなどの対応もおこなった。今後も、関係機関とは密に連携し継続して体調把握につとめていく。

人材育成に関しては、以前に比べ、階層別に職員配置ができるようになり、OJTしやすい環境にある。しかし、十分に育成のシステムが確立しておらず、活かしてはいない。各自がチームのなかでの役割、担うべき機能を自覚し、成長できるよう育成に取り組む必要がある。

1. 職員体制

所長 1名 サービス管理責任者 1名 看護師常勤 1名・非常勤 3名

生活支援員一日平均 10.8名以上（正規 40名、非常勤 6名）

（基準上の必要職員数 8.7名）

事務員 1名(兼務) 運転手 1名(兼務) 栄養士 1名 調理員 1名（非常勤）

2. 利用状況

登録名	37名（3月末）	男性	15名	女性	22名
-----	----------	----	-----	----	-----

年度途中退所者 1名 新規利用登録 9名

年間開所日数 286日 年間延べ利用者数 4,231名（昨年 3,792 一昨年 3,476）

一日平均利用者数 14.8名（昨年 15.6名 一昨年 14.4名）

3. 主な活動

1) 外出先

・洛南イオン（5、7、9、10、11、1月の11日イエローキャンペーン活動参加）

- ・6月琵琶湖博物館
- ・7月京都市青少年科学センター
- ・9月鉄道博物館
- ・11月紅葉ドライブ（鴻巣山運動公園）
- ・11月京親協コンサート
- ・12月京都文化博物館

（以上、すべてさくらの家と合同で参加）

2) 主なレクリエーション活動

- ・染物・園芸・紙すき・音楽療法・室内ゲーム・誕生会・アルミ缶リサイクル・クッキング等

- 3) 避難訓練 11月参加者 38名（内、職員 22名）
3月参加者 41名（内、職員 23名）

4. アクシデント

- ・与薬関連 5件（与薬時間遅れ2件 与薬間違い2件 こぼし1件）
- ・転倒、怪我 17件
（他傷5件 転倒5件 ぶつけて傷4件 血圧計での痣2件 気づかず痣1件）
- ・紛失・物品破損・私物取扱・物品管理 15件
（私物紛失3件 私物忘れ2件 管理7件 共有物破損2件 私物間違い1件）
- ・介護4件（車いすベルト忘れ1件 移乗ミス1件 入浴1件 吸引時間ミス1件）
- ・送迎5件（時間伝達間違い3件 迎え忘れ1件 ハッチバックにあたる1件）
- ・誤嚥・異食3件
- ・連絡調整3件

以上 52件

*物品管理において、共用物の取扱ルールを明文化できていないため、杜撰になってしまっている。破損のケースもあり、注意器換気を怠らず環境整備にあたっていく。

*私物の取扱いについて、預かっているものであるという認識を深め、紛失・破損につながらないようにしていく。

生活介護事業 さくらの家 事業報告

【総括】

これまで即売会に向け創作活動を毎月取り組んでいたが、即売会を縮小し、個々の利用者の活動の見直しを行った。その結果、利用者に沿って個別に機能訓練やストレッチの活動に重点をおいて取り組み、身体機能の維持に努めた。しかし、加齢と共に歩行機能の低下もみられる利用者もおられるため、今後は、病院へリハビリ同行する職員が問題意識をもって専門家に相談・助言を得る努力を行い、それらの内容を職員間で共有し、法人内で統一した支援が実践できるようにしていく必要がある。

一方、紙漉き・陶芸・手芸・クッキング等定着した活動は継続させ、利用者が担える役割・行程に重点をおいて取り組んだ。外出に関しては、天候に左右されたが、それぞれの気候や風景を体感し、散歩や公園の遊具を利用するなど、屋外で身体を動かす機会を設け

気分転換に努め、利用者にも好評であった。毎月の外出は、季節を感じ楽しめる内容を検討し継続、実施していく。また、昨年より試行した職員による音楽活動は、利用者全体で楽しめる機会にもなり、みんなが気軽に親しみをもてるよう計画的に取り組み、利用者の楽しみに繋げていく。

健康管理面では、ご家庭との連携をはかり、体調把握に努め、迅速に対応できるようにしている。また、日々の気づきを大切に、いつもと違った時はご家庭と相談し適切な対応を行う。必要に応じて関係機関と連携し安定した支援をおこなっていく。

なお、入浴ニーズに対応した結果、実施回数は昨年の 700 回から 971 回に増加した。

1. 職員体制

所長 1 名 サービス管理責任者 1 名 看護師非常勤 2 名

生活支援員一日 8.2 名以上（正規 34 名 非常勤 1 名）

（基準上の必要職員数 7.2 名）

事務員 1 名（兼務） 運転手 1 名（兼務） 栄養士 1 名

2. 利用状況 登録 31 名（3 月末） 男性 10 名 女性 21 名

新規利用登録 5 名

年間開所日数 243 日 年間延べ利用者数 2,990 名（昨年 2,642 一昨年 2,419 名）

一日平均利用者数 12.3 名（昨年 10.9 名、一昨年 10 名）

3. 主な活動

1) 外出先

・洛南イオン（5、7、9、10、11、1 月の 11 日イエローキャンペーン活動参加）

・6 月 琵琶湖博物館

・7 月 青少年科学センター

・9 月 京都鉄道博物館

・11 月 京親協コンサート

・11 月 紅葉ドライブ 鴻巣山運動公園

・12 月 京都市文化博物館 京都ファミリー

2) 主なレクリエーション活動

・紙すき・音楽療法・陶芸・アルミ缶リサイクル・クッキング等・作品展示即売会・
戸外活動・創作

3) 避難訓練 10 月参加者 25 名（内、職員 17 名）

3 月参加者 24 名（内、職員 14 名）

4. アクシデント

・転倒・怪我 16 件（転倒 7 件・他傷 6 件・怪我 3 件）

・送迎関係 4 件（ロック忘れ 1 件・送迎忘れ 2 件など）

・私物取扱い関連 17 件（私物荷物忘れ 8 件・利用者同士の間違い 4 件・共有物持ち帰り 2 件・無くなった物が発見される 1 件・私物破損 3 件など）

- ・紛失、物品取扱い 4 件（破損 1 件・紛失 3 件）
 - ・与薬関連 3 件（服薬忘れ 2 件・落下薬 1 件）
 - ・その他 3 件（誤食 1 件・着脱間違い 1 件）
- 以上 49 件
- * 職員の確認不足によるヒューマンエラーが積み重なった年となった。その都度、原因・対策を職員間で協議し改善に向けて取り組みを行った。
- * 私物取扱い関連に関しては、私物の管理、利用者同士の私物の入れ間違いが発生する等も多く、物品の管理を徹底し、職員の意識改革とチームとして業務に従事する職場環境を創る必要がある。

共通事項.

1. 主な派遣研修・会議等

- 6 月 ご家族懇談会
- ・ 7 月 リスクマネジメント研修（1 名）
ケースカンファレンス研修（1 名）
- ・ 8 月 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程（中堅職員コース）（1 名）
福祉職場インターンシップ事前研修（1 名）
- ・ 9 月 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程（初任者コース）（1 名）
- ・ 10 月 福祉職員人権研修～新任・中堅職員編～（1 名）
こころを豊かにレクリエーション研修（1 名）
- ・ 職員会議（1 回／月）

2. 利用時間

◇榎の家

月曜日～土曜日（年末年始・お盆・祝日を除く 9 時 40 分～15 時 40 分） 5 月より土開所

◇さくらの家

月曜日～金曜日（年末年始・お盆・祝日を除く 9 時 40 分～15 時 40 分）

3. 一日の予定

送迎→到着(9:40)→朝の会→午前の活動→昼食・休憩→午後の活動→送迎(15:40)→各家庭

4. 福祉体験実習・施設見学等の受入

呉竹総合支援学校（高等部 2 年生）施設見学会	6 月 7 日 2 名
湖南地域に通所療育をつくる会施設見学会	6 月 16 日 10 名
特定非営利活動法人きらら施設見学会	6 月 17 日 22 名
東総合支援学校夏季教職員福祉事業所見学会	7 月 26 日 3 名 29 日 5 名
呉竹総合支援学校施設見学会	8 月 1 日 10 名
呉竹総合支援学校福祉体験実習	9 月 26～28 日 1 名
東総合支援学校 PTA 後期施設見学会	11 月 2 日 9 名
東総合支援学校生き方探究・チャレンジ体験・中学	11 月 8 日 3 名
中学生（宇治市）職場・福祉体験学習受入	11 月 10～11 日 3 名

5. その他

アルミ缶リサイクル活動の売上金については、利用者全員に 8 月 T シャツ、12 月タオルを配布した。

共同生活介護事業 ハックベリー 事業報告

【総 括】

今年度は、年度はじめに男性利用者1名が急遽入院となり、退院まで約1か月半かかった。入院して2日目に容態が急変し、一時はICUへ入られていたが、奇跡的に回復された。毎日の関わりの中で、慣れからくる安易な考えで判断せずに、小さな異変も見逃さないようにすることの重要性を認識させられた。今後は、利用者の日々の状態を把握して支援できる職員を育成していく必要がある。

健康管理面では、口腔ケアについても課題が見られた。2名の男性利用者が全身麻酔での歯の治療が必要となり、治療が終了するまで半年ほどかかった。新たな歯科口腔センターとのつながりももて、専門医より指導いただき、口腔ケアの改善につなげることができた。今後も医療とのつながりは、さら増していくことは間違いない。看護師や医療機関との連携を密にしておく。

余暇支援では、月に1回の全体外出も継続し、職員も楽しみをもって企画実行へ移すことができている。また週末には、個々で外出や買い物の時間を設け、気分転換を図れるようにしている。個々の外出支援の内容を満足度の高いものにしていき、心身の充実をはかっている。

支援体制面では、新規女性職員2名の育成に力を入れ、フォローアップをしながら、利用者が安心、安全に支援を受けられるように努めた。また、前年度からさらに男性職員も1名加わり、課題としている事項を検討する機会をもつことに積極的になれた。交代制勤務で一同に職員が集まるのが難しい中で、意見交換や職員の想いを共有する場がもてたことは、チーム意識を高めることにつながった。以前から課題となっていた対人援助についても、職員1人の課題ではなく、チームで取り上げていくことで孤立感をなくしていく。利用者ごとの担当職員も2年通して担当することにより、前年度よりさらに利用者理解を深めて、支援することができた。今年度からは、担当職員を変更し、また2名体制にすることで、支援体制の底上げを目指す。

年度はじめに女性職員1名の退職、年明けに女性職員2名が夜勤業務からはずれ、男性職員が夜勤も従事している状態になっている。今後は、夜勤従事者の負担軽減を目標に、利用者が安心して日常生活を継続していけるように多方面から取り組んでいく。

1. 職員体制

管理者 1名 サービス管理責任者 1名
生活支援員 9名(常勤 9名)
世話人 6名(常勤 3名、非常勤 3名)
ヘルパー派遣 26名

2. 利用状況 入居定員 6名 入居者 6名

延べ利用人数 2,074人(稼働率 95%) 営業日 365日

3. 主な活動

1) 日中支援

- ・通所先との連絡調整、余暇支援調整、買い物外出支援
- ・往診医との連絡調整、専門医の通院調整

2) 余暇支援 毎月 1 回全員での外出

びわこバレイ、神戸ハーバーランド、なばなの里、イチゴ狩り、京都鉄道博物館等

3) 避難訓練（短期入所事業との合同訓練）

11 月参加者 17 名（内、職員 12 名）

3 月参加者 11 名（内、職員 7 名）（夜間想定訓練）

4. 主な派遣研修・会議等

- ・派遣研修 6 月 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程(初任者コース)
福祉職のためのマナー研修

7 月 アセスメント・プランニング

8 月 ケース記録の基礎と展開

10 月 福祉職員人権研修

社会福祉援助入門講座

12 月 ファシリテーショ

福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程(初任者コース)

1 月 リスクマネジメント研修

- ・避難訓練（11 月参加者 17 名、3 月参加者 11 名）どちらも短期入所事業との合同訓練
- ・ハックベリー職員会議（年 12 回）

5. 施設見学等の受入

なし

6. アクシデント

- ・与薬関連 6 件（落下薬 3 件、飲み忘れ 1 件、服薬後の吸引 2 件）
- ・怪我、2 件（耳掃除後の出血 1 件、髭剃り時に出血）
- ・物品破損、紛失 7 件（紛失 2 件、破損 5 件）
- ・物品忘れ 2 件
- ・見守り不備 1 件

合計 17 件

*再発防止のための対応としては、ホーム施錠の徹底とエレベーターの電源オフ、見守りの強化を図る。また服薬後の吸引については、服薬後 30 分は、吸引器に布を覆い隠すことで、視覚に入らないように対策をとった。

共同生活介護事業 ベル 事業報告

【総括】

今年度は入居者の体調面の変化や、心的ストレスに起因していると思われる体調不良、怪我の対応の遅れ、さらに情報伝達の不備から傷の悪化を招いた事例もあり、健康面での対応に奔走した1年であった。入居者も年齢を重ねて行かれる中で、加齢に伴う身体状況の変化や生じるリスクは当然有り、そういった点を意識しながら、日常の生活を支えて行く事ができるよう、幅広い視点・知識・気付きを持ち、日々支援できる職員の育成がいかに重要か感じさせられる年であった。

余暇支援としては、入居者全体での合同外出を、昨年は季節毎の年4回の実施であったが、今年から毎月、通年で12回実施し、それらの活動を通じ、職員間の連携の強化や入居者との関係作りの機会として成果があるとともに、入居者の方々も外出を楽しみにしてくださっており、余暇の充実と心身のリフレッシュにも繋げる事ができた。

職員体制としては、職員個々の成長による底上げを実感できており、前年度からの課題であった入居者に対する応対や声掛け、日常の細かな気付きについても改善が感じられる反面、アクシデント件数は昨年度より大幅に増えており、業務における慣れに起因するアクシデントが多く目につく。この状況を職員一同受け止めた上で、今一度引き締めて日々の業務に就く必要がある。

次年度に向けての取り組みとしては、業務改善に力を注ぎ、状態化していた就業時間外の業務、夜間帯業務の見直しを検討、業務の効率化と夜間従事者の負担の軽減を目指す。職員個々の意欲を活かす事で成長を促し、長く働き続ける事が出来る職場環境の構築を目標とし、業務マニュアルの見直し、未整備のマニュアルの作成を進め業務の標準化を図る。

1. 職員体制

管理者 1名 サービス管理責任者 1名
生活支援員 8名(常勤 8名)
世話人 9名(常勤 4名、非常勤 5名)
ヘルパー派遣 24名

2. 利用状況 入居定員 6名 入居者 6名
延べ利用人数 2,061人(稼働率 95%) 営業日 363日

3. 主な活動

- 1) 日中支援
 - ・通所先との連絡調整、余暇支援調整、買い物外出支援
 - ・往診医との連絡調整
- 2) 余暇支援 阿倍野ハルカス・コカコーラ工場見学・天然温泉源氏の湯等
- 3) 避難訓練 11月参加者 11名(内、職員 7名)

3月参加者 11名（内、職員 6名）（夜間想定訓練）

4. 主な派遣研修・会議等

- ・7月 利用者の声を聴く （1名）
- ・8月 ケース記録の基礎と展開 （1名）
キャリアパス対応管理職員コース （1名）
- ・9月 福祉職員人権研修（中堅職員編）（1名）
対人援助のためのコーチング （1名）
問題解決のための思考法 （1名）
- ・1月 リスクマネジメント研修（1名）
アサーション （1名）
- ・避難訓練（10月参加者 10名、3月参加者 名）
- ・ベル職員会議（年 12回）

5. 施設見学等の受入

- ・9月 アイアイハウス家族会 8名
- ・11月 育成会左京支部 18名
- ・12月 やましなの里 4名 延べ 30名

6. アクシデント

- ・与薬関連 6件（飲み忘れ 1件、落下薬 5件）
- ・転倒、怪我 11件（傷 7件、転倒 4件）
- ・物品破損、紛失 9件（備品、私物の破損 8件、紛失 1件）
- ・失念 5件
- ・賞味期限切れ 2件 ・介護 9件

合計 42件

※予薬に関する再発防止として、予薬の実施時の声掛け、周りの職員によるダブルチェックと実施後の落下薬の有無を再確認することを徹底している。

※転倒については、同一介助者による転倒が多く見られており、個別への指導を通じて再発の防止に努めている。

※自傷による傷、職員間の情報の共有ができておらず、結果処置の遅れからの悪化による怪我のアクシデントが見られた。画像での傷の状態の情報の共有に努めつつ、確実に情報を伝える事に加えて、日常のボディチェック、爪切りの徹底による未然の防止にも努めている。

短期入所事業 サポートセンターえのき 事業報告

【総括】

利用登録はされているが体調等の理由により利用されない登録者が2名おられ、実人員は25名であった。利用総数587人のうち、区分6が半数をしめ、区分5が29%、区分4が11%となっている。今期はグループホームへの入居が決まり、夏以降利用されなくなった方がおられる一方、新たに利用受け入れをはじめた方もおられた。総数としては、支援体制の関係上減傾向にある。なお、新規の緊急受入は実施できていない。

1. 職員体制

管理者 1名 生活支援員 15名(常勤兼務)

2. 利用状況 利用定員 4名

延べ利用人数 587人 延べ利用回数 276回 一日平均 1.6人 実人員 25人
(昨年度延べ利用人数 652人 延べ利用回数 303回 一日平均 1.8人 実人員 25人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
利用人数	49	57	51	47	49	54	307
利用回数	24	24	25	23	24	22	142
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計
利用人数	50	51	50	43	41	45	280
利用回数	23	25	23	21	20	22	134

3. アクシデント

- ・帽子の着用忘れ
 - ・私物が不明になるも後日発見される。 計2件
- 重大なアクシデントはなく、利用期間中の体調異変もなかった。

特定相談支援事業 えのき 事業報告

1. 職員体制

管理者 1名 相談支援専門員 1名

2. 利用状況(年間)

実利用人数 34人

- ・日常生活全般に関する相談 22件
- ・地域の障害福祉サービス事業所等の情報提供 6件
- ・指定計画相談 37件(内、計画変更 3件含む)
- ・モニタリング 31件

3. 主な派遣研修・会議等

- ・法人職員研修、法人職員会議
- ・計画相談策定のためのカンファレンス開催

居宅支援事業 サポートセンターめい 事業報告

【総括】

支援状況では、居宅介護・重度訪問介護が前年比を下回る結果となった。居宅介護ではグループホーム利用者で入院された方や自宅療養の方、女性利用者の支援時間の減少が見られた。また、在宅者にも入院が長くなったことでの影響があった。重度訪問介護では、日中長時間支援を実施していたケースの終了があり、土曜デイ実施に伴う切り替えの影響から時間の減少が見られた。行動援護・移動支援は前々年度同様に切り替えが進んでおり、移動支援がそのまま行動援護に移行した結果となった。また、行動援護従事者研修も計画的に実施してきた結果、法人全体では研修途中者も含め11名受講することができた。情報共有に関して、利用者の一覧を作成し担当者を分かりやすくし、業務内容の選定や役割を明確化することで、個人に任せるのではなく、事業所全体で進捗状況を確認し合うことができたと感じる。職員の取り組む姿勢は、事前の業務申請も定着し、各担当者が責任を持って業務ができるようになってきており、自ら主体的に取り組んでいく意識が出てきた。今後は、支援・業務に対して提案・実行ができる職員を育成をしていく。

1. 職員体制 管理者1名(兼サービス提供責任者2名) 職員34名
契約職員8名 登録ヘルパー10名 事務員2名

2. 事業内容 居宅介護・重度訪問介護・行動援護・移動支援

3. 利用者概要 ○ 登: 95名 (2017年3月末 現在)
うち児童 6名

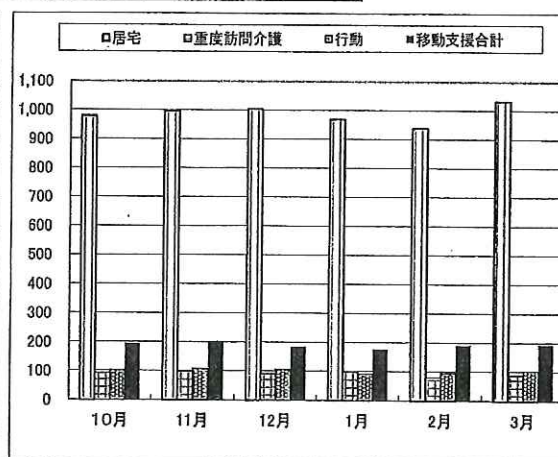
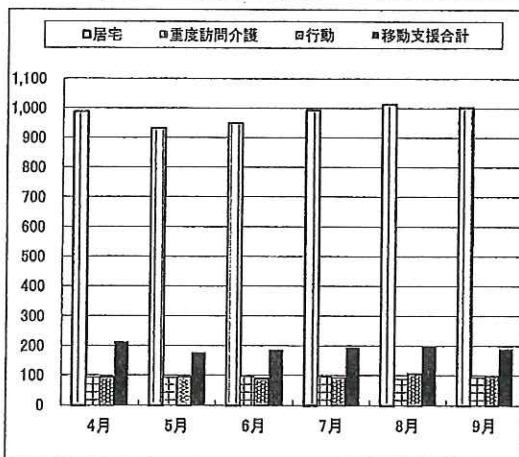
性別/年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	平均年齢
男性	8	15	18	9	2	0	31.2歳
女性	5	12	13	9	3	1	33.9歳
合計	13	27	31	18	5	1	32.4歳

4. 居宅支援状況(時間数)

上半期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
居宅介護	1,239.8	1,174.5	1,107.3	1,249.7	1,285.7	1,254.8	7,311.8
重度訪問介護	382.0	368.5	364.0	354.0	331.0	375.0	2,174.5
行動援護	283.2	284.5	256.1	301.3	307.9	303.2	1,736.2
移動支援(身体介護伴う)	597.8	498.7	619.4	596.5	531.6	497.0	3,341.0
(身体介護伴わない)	115.8	88.5	105.0	86.5	100.0	105.5	601.3
移動支援 合計	713.6	587.2	724.4	683.0	631.6	602.5	3,942.3
総合計	2,618.6	2,414.7	2,451.8	2,588.0	2,556.2	2,535.5	15,164.8

下半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	年度計
居宅介護	1,245.4	1,214.5	1,222.5	1,187.6	1,174.7	1,264.4	7,309.1	14,620.9
重度訪問介護	349.0	361.5	341.0	358.5	278.0	333.5	2,021.5	4,196.0
行動援護	312.9	322.0	331.0	290.2	273.3	316.8	1,846.2	3,582.4
移動支援(身体介護伴う)	541.3	530.1	463.9	452.7	502.9	446.9	2,937.8	6,278.8
(身体介護伴わない)	120.0	106.0	101.5	97.0	102.5	102.3	629.3	1,230.6
移動支援 合計	661.3	636.1	565.4	549.7	605.4	549.2	3,567.1	7,509.4
総合計	2,568.6	2,534.1	2,459.9	2,386.0	2,331.4	2,463.9	14,743.9	29,908.7

	居宅介護	重度訪問	行動援護	移動支援	総合計
2015年(年間)	14,713.9	5,182.1	2,092.3	7,803.7	31,169.5
2016年(年間)	14,620.9	4,196.0	3,582.4	6,307.8	29,908.7



【障害程度区分による利用状況一覧】

居宅介護						
	児童	区分3	区分4	区分5	区分6	
時間数	0.00	111.00	532.25	386.35	13,591.30	
件数	0	99	506	466	10,735	
平均支援時間	0.00	1.12	1.05	0.83	1.27	
重度訪問介護			行動援護			
	区分4	区分5	区分6	区分4	区分5	区分6
時間数			4,196.04	0.00	532.80	3,049.60
件数			1114	0	238	946
平均支援時間			3.77	0.00	2.24	3.22

5. アクシデント・インシデント

アクシデント

介護	9 件
怪我	5 件
情報	1 件
調整	3 件
伝達	1 件
転倒	2 件
破損	8 件
服薬	2 件
忘去	7 件
忘れ物	5 件
遅刻	3 件
金銭	4 件
紛失	1 件

前々年度との件数の比較では10件増加しており、項目として遅刻・金銭を加えた。遅刻に関して、早朝の支援が目立ち、利用者より担当を外して欲しい等の苦情に繋がったケースもあった。係長・サービス提供責任者が中心となり担当者による支援日の前日・当日連絡を一定期間実施する等の対策を講じた。

金銭管理について、利用者自ら実施されるケースの確認や支援前の所持金確認が徹底できておらず、結果支援後に利用者より指摘を受けるケースが増えた。利用者の金銭に関するスキルの把握・支援前後での所持金の把握する対策を講じた。

アクシデントの多い職員に関しては、係長・サービス提供責任者だけでなく、事業所全体での課題として受け止め、職員全体でフォローアップを実施するようにした。今後はアクシデント・インシデントを関連付け等で周知できる体制を築きアクシデント件数を減らしていけるよう努力していく。

合計51件

インシデント

介護	60 件
整備	23 件
紛失	12 件
交通	6 件
運営	2 件
人権侵害	4 件
第三者	11 件
その他	19 件

介護に関しての報告がとりわけ多く、およそ半数を占めた。続いて支援における環境・物品の整備に関する報告となり、そのほとんどが利用者の怪我等の事故へと繋がりを内容であった。

また、人権侵害に関して4件報告があり、支援におけるヘルパーの態度や見守り方法に関して問題意識を持った職員からの問題提起も見られた。今後はインシデント報告を有効にいかし、1人1人が支援の在り方を見つめ直し、改善に取り組める環境を整備していきたい。

合計137件

6. 主な派遣研修・会議等

○派遣研修

キャリアパス対応チームリーダーコ	1名
OJTリーダー育成研修	1名
対人援助職のためのコーチング	1名
福祉施設人権研修(指導的・管理)	1名

○居宅会議(毎月2回)

7. レスパイト事業

1. 事業内容

- タイムケア
- 宿泊
- 送迎
- 入浴

2. 利用者概要 (男性 31名 女性 21名)

(2017年3月31日 現在)

性別/年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	平均年齢
男性	3	8	14	5	0	1	34.9歳
女性	0	6	7	6	2	0	37.2歳

5. 利用状況

○利用内訳

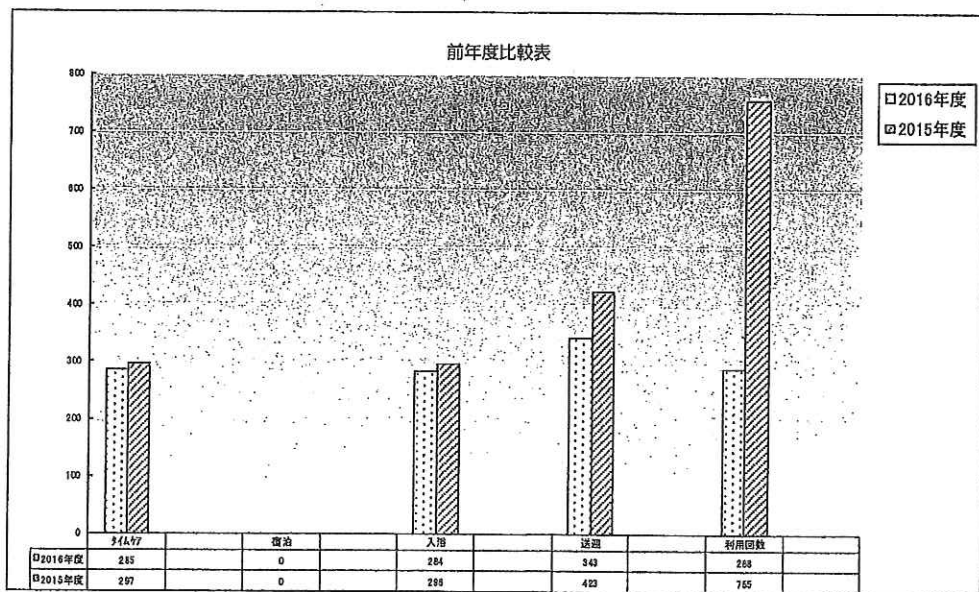
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
タイムケア	20	24	28	25	20	20	23	24	19	22	38	22	285
宿泊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入浴	23	28	24	24	24	29	24	21	21	19	21	26	284
送迎	24	31	32	29	26	24	28	27	26	32	38	26	343
利用料	34	23	21	30	21	22	26	24	22	22	22	21	288
給食	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3

☆自宅入浴が難しい方の入浴場として、また学校・職場・ショートステイ先への送迎等、主に障害者自立支援法では賄えないニーズに対してご利用頂いています。

☆冠婚葬祭・家族の入院・本人又は介護者のリフレッシュ時などにご利用頂いています。

○年間件数

	タイムケア	宿泊	入浴	送迎	利用回数
2015年度	297	0	296	423	755
2016年度	285	0	284	343	288



放課後等デイサービス そらまめ 事業報告

【総 括】

4月から開所し、当初は4名の登録からスタートした。はじめは週1回からの利用の方が長期休みや慣れたところに週2日の利用となり、また支援センターからも相談があり新規利用の方が3名増えた。今年に入り次年度の利用を検討される方のご相談・見学があった。開所の4月以前に開所の情報の開示や見学予定などを入れることができず、今年度は計画的に利用者の募集をすることができなかった。今後は、相談があったケースや今の利用者から地域的にどんなニーズがあるのかを把握し、数年後の利用者の動きも考慮して対応していきたい。

そらまめでの取り組みについては、はじめはクッキングや創作などを月に数回入れる程度で、利用者への関わり・介助方法の確立などに重点に置き、安全に安心して利用して頂けるよう心掛けた。9月以降は、クッキング・創作・ゲーム・行事を週ごとに企画し実施することで、プログラムを通して利用者の成長・環境や職員に対する安心感や慣れ・職員や利用者同士の関係づくりをみることができた。プログラム開始当初は緊張から参加を拒否する方もおられたが、定期的に続けていくことで見通しを持ち「できた」という達成感を共有できるようになり、利用者が自信を持って取り組み笑顔を多く見せていただけるようになった。また、新しい取り組みの中から今後の課題も見え、長期休みの外出などに生かせるようにしていく。

利用者については、今回初めて支援を利用する方、相談支援や支援センターと接点がない方もおられ、生活全体のニーズは何か、どんな支援方法があるのか、関係機関との連携をどのようにとっていくのかなど、まだ見えずに不安がある方もおられた。そらまめでは支援だけではなく、支援センターとの連絡調整、他事業所や学校への訪問・見学、リハビリ通院などの同行などを積極的におこない、ニーズの確認・共有をおこなった。また入浴や訪問介護へのニーズがあれば可能な限り相談・対応をおこなった。

職員体制は、1年目の職員を迎えそらまめで介護技術・コミュニケーションを学ぶと共に、生活介護事業や居宅介護事業にも研修に行き、より幅広い関わりを持ち、利用者対応を学ぶようにした。

次年度に向けて、より多くの利用者のニーズに応えられるよう、マニュアルの整備・情報共有をおこない職員全体のスキルを上げていく。また、学校や他事業所と連携し、利用者が楽しく安心して過ごすことができるように生活全体の中でのそらまめの位置づけを確認しながら支援を行っていく。

1. 職員体制

所長 1名 児童発達管理責任者 1名 保育士(常勤1名 非常勤1名)
児童指導員(非常勤2名)

2. 利用状況 定員 10 名 登録 7 名 (3 月末) 男性 3 名 女性 4 名
年間開所日数 243 日 年間延べ利用者数 466 名
一日平均利用者数 1.9 名

3. 利用時間

平日 月曜～金曜 学校終了時から 17 時 30 分まで
長期休暇中 月曜～金曜 9 時 30 分から 17 時 30 分まで

4. 対象者

北区・上京区・左京区・中京区・下京区

5. 主な活動

1) **外出先**

立本寺、イオンモール五条、北大路ビブレ、カナート洛北、植物園、嵐山、御所、動物園、障害者スポーツセンター

2) **主なレクリエーション活動**

音の風

3) 避難訓練 6 月実施：参加者 7 名(うち利用者 2 名)

12 月実施：参加者 10 名(うち利用者 3 名)

6. アクシデント

・介護 8 件
・破損 5 件
・忘れ物 4 件
・誤嚥・異食 1 件

・転倒、怪我 3 件
・忘却 2 件
・金銭 1 件

以上 24 件